

令和5年度(2023年度)学校評価報告書

学校園名	宝塚市立 安倉 幼稚園	校園長名	住吉 章宏
------	-------------	------	-------

1 学校教育目標

【教育目標】 心身ともにたくましい幼児の育成
 【研究主題】 「やる気・本気・根気 粘り強く取り組む幼児を育む保育実践」

2 重点目標

- 豊かな体験が広がる保育の実践
- 家庭・地域と共に育ち合う幼稚園づくり
- 心豊かな教師づくり

3 学校自己評価結果 (A:優れている B:良い C:おおむね良好 D:要改善)

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
園運営	幼稚園開かれたづくり	B	日々の取り組みの情報発信は、家庭へはコドモンを用いて発信できた。地域への発信は、ホームページを用いて行ったが、1学期の発信量が少なめであったので、来年度から改善したい。 今後、特に新たに導入したコドモンについては、何をどのように発信するのか等の運用の整理や掲載内容のスキルアップが必要と考える。
	子育て支援の推進	B	半日保育の降園時に行うけやきタイムを、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した事を機に復活させ、担任が直接保護者に学級の様子や課題を発信することができた。 リスちゃんクラブ(1~3歳児の未就園児保育)では保護者同士の交流の場となるように努め、回を重ねる程に、定員いっぱい(15組)になることが増えた。ニーズが高まってきているので、回数を増やす等検討をしていきたい。
	危機管理体制の整備	B	火災、引き渡し、水害、不審者、地震等の訓練を計画通り行うことができた。年度後半に実施することが多かったが、前半から実施する必要がある。また、「改善を行うための訓練」という視点を大事にしていきたい。
	教職員の資質向上	A	日々、ドキュメンテーションを用いたカンファレンスで、子どもの姿から内面の育ち、課題等について様々な視点から話し合い、自分の支援をふりかえった。このことを通して、幼児理解を深めることができた。 業務が多忙な中で行うので、ワークライフバランスを考え、要領よく進める必要がある。

4 評価項目ごとの

学校関係者評価

- ・地域の方や安倉幼稚園に関心のある方が、情報を入しやすいうように年度当初からホームページは充実させたい。
- ・保護者が、新たに導入されたコドモンで子どもの様子を写真入りで詳しく知ることができるようになったのはよかった。どんどんドキュメンテーションは発信をしてほしい。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類になってから、少しずつ行事が以前のように行われるようになってきたのは、保護者にとってはありがたいことである。以前と全く同じものではなく、今の幼稚園に適したものにしようと工夫しているところは良いと思う。
- ・リスちゃんクラブにPTAも協力しているというのは良いと思う。
- ・適切に実施されていると思う。命を守るために、着実に実施するのは大切なことである。
- ・引き渡し訓練等、保護者も連動して訓練を行っているのは、大事なことである。
- ・忙しい中、先生たちが、ドキュメンテーションを用いたカンファレンスで研修を頻繁に行ったり、様々な研修に参加したりしているおかげで、子ども理解が進んでいることはとてもありがたい。ライフワークバランスを大事にしながら、無理なく進めてほしい。

教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	○ 幼児の興味や関心に基づき、主体的に根気強く取り組めるような保育内容を工夫する。	A	教職員同士で子どもの実態や課題、育ちに 応じた保育内容を計画してきた。また、保 育実践では、教師はすぐに手を差し伸べる のではなく、幼児が自分で考えて動くよう な声かけをし、しっかり見守り必要な支援 を行うことを心掛けた。引き続き子どもの 自立心を育てる支援を大事にしていきたい。	・子どもが困りごとに出会った時に、 すぐに援助の手を差し伸べるので はなく、様子を見守りながら、ま ずは自分の力で解決できる力がつ くような支援をしているのは大事 なことである。この力は進学して も社会人になっても役に立つであ ろう。
	成 基本的な生活習慣及び 道徳性の芽生えの育	○ 挨拶や身辺整理、手洗い 等をはじめ、園生活全般を 通して、基本的な生活習慣を 育成する。	B	毎月、養護の教員が保健指導を行い、各学 級でそれが定着するよう支援をしてきた。 生活習慣の定着については個人差が大き いが、子ども自身が自主的に考え行動す るよう引き続き取り組んでいきたい。挨拶は 目を合わせてできる子どもが増えてきた。	・新型コロナウイルス感染症が下火 になったとはいえ、インフルエン ザや風邪が流行した。保健の先生 から、ウイルス等から自分を守る 方法等を学び、幼稚園全体でその 実践を支えているのは良いと思 う。取り組みで得たものは、大人 になっても役に立つだろう。
	校種間連携	○ 保・幼・小・中・養護学 校と交流等について話し 合う場をもち、教師間で 共通理解を図る。特に小 学校への学びのつながり について、意見交流を行 い、共に育てる意識をも つ。	B	年長児と安倉小学校1年生とで、好きな 遊びの交流やコンサートを見に来ていた りたり、1年生の図工展を見に行ったり した。また、保育所の園児とも遊びの 交流をしたり、一緒に小学校の授業参観 をしたりした。子ども同士の交流はでき たが、幼小中の教師同士による交流や学 び合いは、従来通りの域を超えることは なかった。さらなる交流を図っていきた い。	・保幼小中の交流は良く実施してい ると思う。また、地域の運動会な ど地域との交流も盛んだと思う。 先生方はつけた評価より、評議員 はもっと良いと考える。 ・あえて挙げるとすると、距離的に 遠くではあるが、少し遠方の小学 校との交流もできたらよいと思 う。
課題教育	人権教育	○ 幼児期の特性を踏まえ 体験を通して幼児期にふ さわしい人権意識の育成 に努める。	B	人権に関する課題を感じたときは、手づく り教材を作成し、それを用いて子ども全 員で考えたり、個別に話を行ったりして きた。幼児一人ひとりの人権課題を見つ め、園全体で話しあって共通認識をも って、子どもの人権を大切にす る取り組みをさらに充実させてきた い。	・子ども同士の間で生じる、人間関 係の小さな事象から丁寧に対応を して、他の子どもや学級・学年の 子どもへ広げて、みんなで人権感 覚を高める取り組みは良いと思 う。 ・人権に関する図書を、さらに設置 してみるのもよいだろう。
	特別支援教育	○ 幼児一人ひとりの課題 を明確にし、教職員全員で 共通理解を図り、幼児の実 態を踏まえた指導を工夫 する。	B	学期のはじめと終わりに園内支援委員会 を持ち、個別の指導計画等を検討して、 一人ひとりの課題に沿った計画を立てた。 また、担任が介助員や加配教員と密に連 携をとることをはじめ、全職員が日々共 通認識をもって支援を進めてきた。引き 続き、個を大切にす る指導を行っていきたい。	・全体への指導をしながら、個別の 指導を大事にしているのは保育を 見たらよくわかった。先生方が、 どの子どもに対しても、個に応じ た対応を丁寧に行っている。 ・目立たず、自分から友達をつくり にくい子どもを見落とさず大事に する意識は持ち続けてほしい。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○アンケートをとったり、保護者の思いや願いを聞いたりしながら実施しているので、評価の方法として適切である。

6 総合的な学校関係者評価

○先生方が全員で子ども一人ひとりの状況を把握し、指導計画を共有して、日々交流して次の実践に生かしているところは素晴らしい。

7 市教育委員会等への要望

○個に応じた手厚い指導を行うにあたり、教職員の十分な配置をお願いしたい。